

STAR

バキュームカー

取扱説明書・部品表

製品コード K31188 · K31184
型式 TVC3520 · TVC3530
部品供給型式 AVC3520-11

製品コード K31185 · K31186
型式 TVC5030 · TVC6530
部品供給型式 AVC5030-11 · AVC6530-11

製品コード K31187
型式 TVC8530
部品供給型式 AVC8530-11

ユアツマンホール アタッチメント(TVC8530オプション)

製品コード K31224
型式 AYM8500

部品ご注文の際は、必ず部品供給型式をご連絡ください。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社



⚠ 安全に作業するため

安全に関する警告について

本機には、⚠印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

⚠ 危険

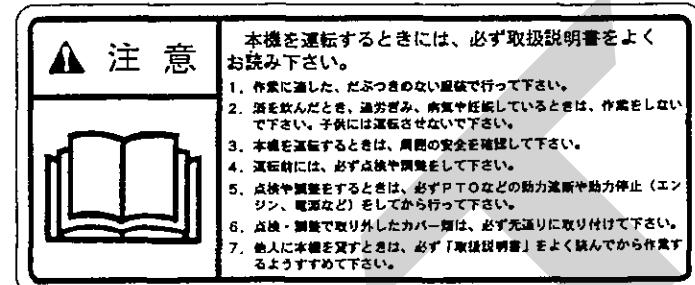
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

⚠ 警告

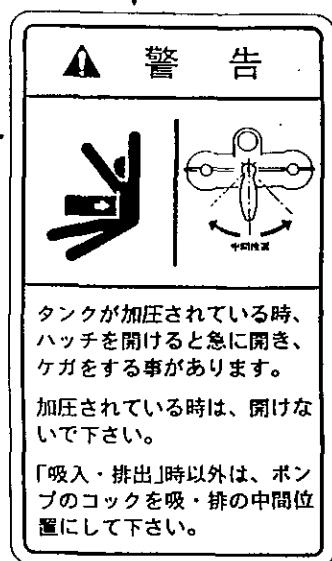
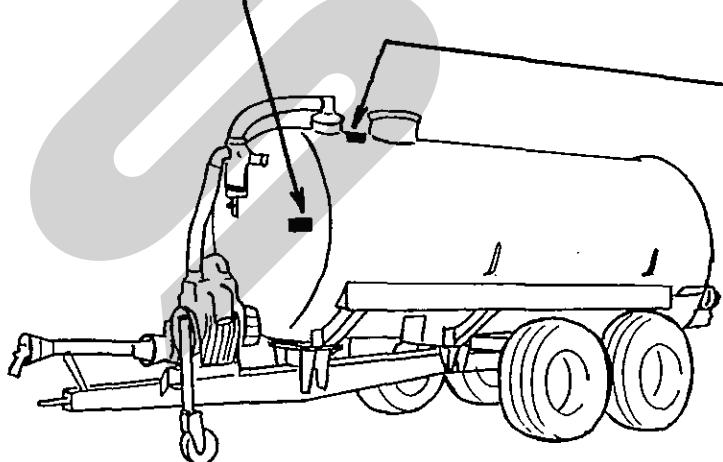
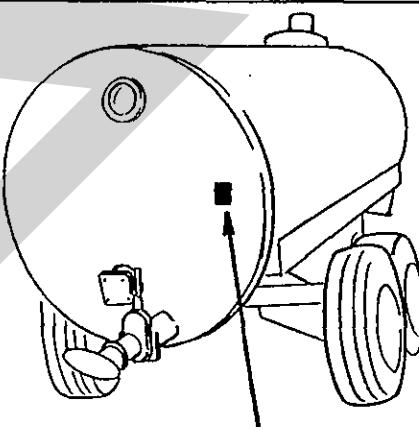
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。



部品番号 106164



部品番号 106460

— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大事なものです。

ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解してからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲注意

- 機械の取り扱いで分からぬ事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していくため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こしケガをする事があります。取扱説明書は、分からぬ事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。

次の場合は、運転しないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
- 酒を飲んだ時。
- 機械操作が未熟な人。
- 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。

次に示す服装で作業してください。

- 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
- ズボンや上着は、だぶつきのないもの

を着用する。

ヘルメットを着用する。

はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

▲警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からぬため、思わぬ事故を起こす事があります。

取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。

機械の改造はしないでください。

アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。

部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

▲注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。

作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

エンジン始動・発進する時は

▲警告

- エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。

運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。

- エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」(中立)にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。

主変速レバーを「N」(中立)にして行ってください。

- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。

- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓、戸などを開け、十分に換気してください。
- PTOを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
PTOを切ってから始動してください。

作業機を着脱する時は

▲警告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。
トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

▲注意

- 作業機をトラクタに連結する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をトラクタから切り離す時、輪止めをせずに行うと、作業機が暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
切り離す時は、スタンドを接地させ、作業機の車輪に輪止めをしてください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

パワージョイントを使用する時は

▲危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。
損傷したらすぐに取り替えてください。
使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。
PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。
トラクタ側と作業機側のチェーンを回転し

ない所に連結してください。

▲注意

- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。
最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
適正な重なり量で使用してください。
- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていると、使用中に外れ、ケガをする事があります。
溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

公道走行時は作業機の装着禁止

▲注意

- トラクタに作業機を連結して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

移動走行する時は

▲危険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。
ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。
トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。
低速走行してください。
- 旋回する時、内輪差により周囲の人を作業機に巻き込み、ケガをさせる事があります。
周囲の人や障害物との間に十分な間隔を保ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で

路肩を走行すると転落事故を起こす事があります。

路肩は走行しないでください。

- 高低差が大きい段差を乗り越えようすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。

あゆみ板を使用してください。

- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。

作業機の上には、人を乗せないでください。

- 突出部を折りたたまずに移動走行すると、障害物などにぶつかりケガをする事があります。

折りたたんで、移動させてください。

▲注意

- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。

移動走行する時は、PTOを切ってください。

作業中は

作業する時は

▲警告

- タンクが加圧されている時、ハッチを開けると急に開き、ケガをする事があります。加圧されている時は、開けないでください。「吸入・排出」時以外は、ポンプのコックを吸・排の中間位置にしてください。

- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。

- 作業機指定のPTO回転数を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。

指定回転数を守ってください。

- 作業機の上に人を乗せると、転落し、思わぬ事故をまねく事があります。

作業機の上には、人を乗せないでください。

- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。

低速で作業してください。

下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。

坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。

- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。

前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。

しっかりとハンドルを握って運転してください。

▲注意

- 機械の調整や、付着物の除去などを行う時、PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。

PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

トラクタから離れる時は

▲警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。

平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

作業が終わったら

機体を清掃する時は

▲注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをする事があります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

終業点検の励行

▲注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

不調処置・点検・整備をする時

▲注意

- 機械に不調が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめてください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下で、ケガをする事があります。
補修もしくは部品交換してください。
継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバー類を取付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをする事があります。
元通りに取り付けてください。

もくじ

A 安全に作業するため

安全に関する警告について	1	作業が終わったら	5
作業前に	2	不調処置・点検・整備をする時	5
作業中は	4		

1 トラクタへの装着

1 各部の名称	8	3. ユアツマンホールアタッチメントと トラクタ油圧取出口との接続	10
2 適応トラクタの範囲	9	5 パワージョイントの装着	10
3 組立部品	9	1. 長さの確認方法	10
1. 解 2. 組立	9	2. 切断方法	11
4 トラクタへの装着	9	3. 安全カバーの脱着方法	11
1. ドローバへの連結	9	4. パワージョイントの連結	11
2. トラクタ油圧取出口との接続	10		

2 運転を始める前の点検

1 運転前の点検	12	2 エンジン始動での点検	12
1. トラクタ各部の点検	12	1. 油圧系統	12
2. 連結部の点検	12	3 給油箇所一覧表	13
(1) ヒッチ部の点検	12		
(2) パワージョイントの点検	12		
3. 製品本体の点検	12		

3 作業の仕方

1 本製品の使用目的	14
2 作業の種類	14
1. 吸入作業	14
2. 排出作業	15
3. マンホールからの注入	15
3 各部の調整	15
1. オープンハッチ・サブマンホール	15
2. 連成計	15
3. 吸入自動停止装置	16
4. ポンプ	16
5. タンク傾斜	16
6. 輪止め	17

4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ	17
2 長期格納する時	17

5 点検と整備について

1 点検整備一覧表	18
-----------	----

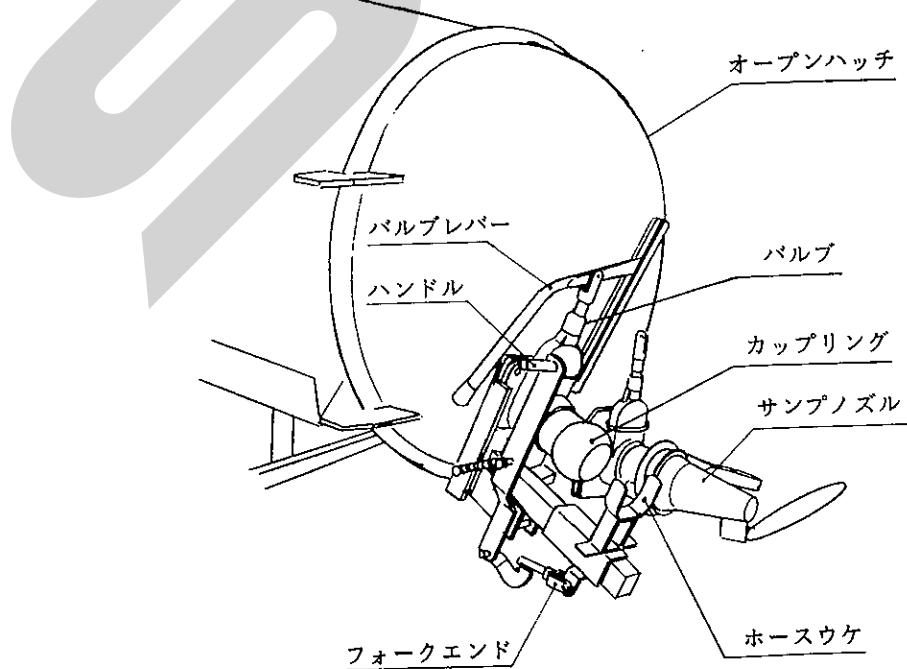
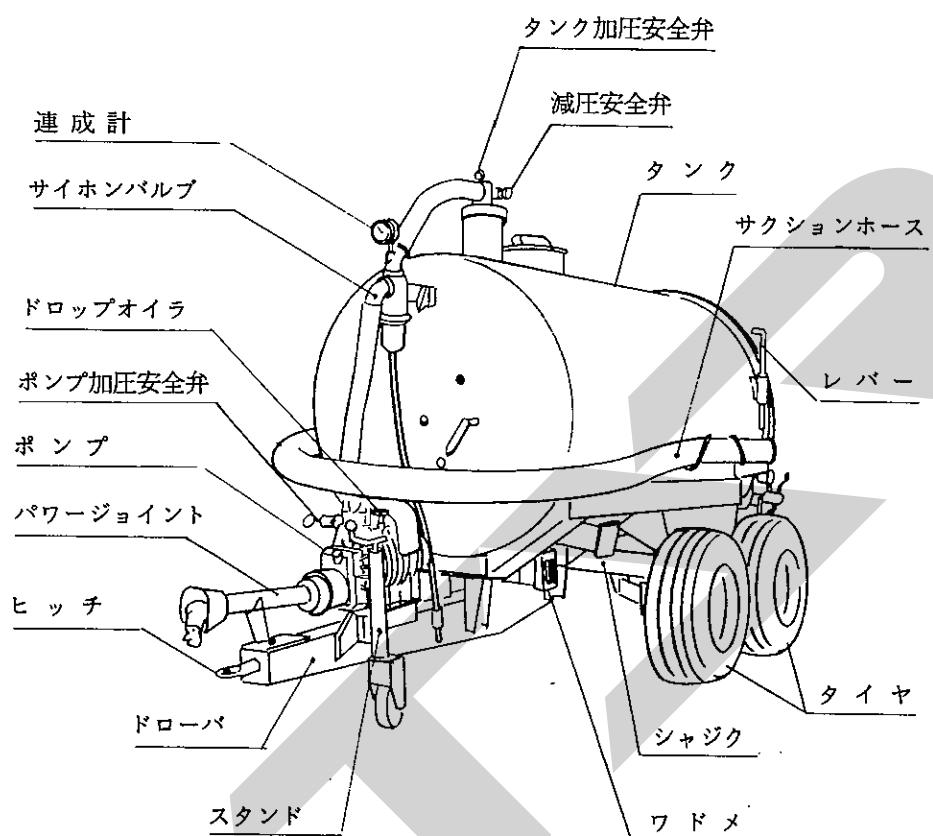
6 不調時の対応

1 吸入時の不調	19
2 不調処置一覧表	19

7 部品表

1 トラクタへの装着

1 各部の名称



2 適応トラクタの範囲

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるよう設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。

この製品の適応トラクタ馬力は次のとおりです。

型 式	適応トラクタ
TVC3520	33 ~ 66 kW (45~90 Ps)
TVC3530	40.5 kW 以上 (55 Ps 以上)
TVC5030	48 kW 以上 (65 Ps 以上)
TVC8530	55 kW 以上 (75 Ps 以上)

3 組立部品

1. 解 構

(1) タンク内にはパワージョイント、連成計、サンプノズルが入っています。

サクションホースはお客様選択です。4"、又は5"のホースをご指定の方はタンク内に入っています。6"ご指定の方はタンク側面のホースウケに取付けています。

(2) タンク後方の左側面に取付けのレバーでハッチを開け、取出してください。

(3) 取出し後はハッチを元どおり確実にロックしてください。(「3-3-1 オープンハッチ・サブマンホール」参照)

2. 組 立

(1) サイホンバルブ上部のメクラキャップをはずし連成計を取付けます。

(2) ハッチのバルブに取付けのカップリングにサンプノズルを取付けます。

4 トラクタへの装着

1. ドローバへの連結

▲ 警 告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。

▲ 注 意

- 作業機をトラクタに連結する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をトラクタから切り離す時、輪止めをせずに行うと、作業機が暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
切り離す時は、必ず、スタンドを接地させ、作業機の車輪に輪止めをしてください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

- (1) トラクタのけん引ヒッチ高さに作業機のヒッチ高さを合せます。(スタンドのハンドルで調整します)
- (2) トラクタのエンジンを始動して、トラクタを後進させ作業機のヒッチの穴に合せエンジンをとめます。
- (3) トラクタに附属のヒッチピンを通し連結し、抜けどめにリンチピン等をヒッチピンに差してください。

取扱い上の注意

ヒッチピンには抜止めのため、必ずリンチピンあるいはベータピンを確実に挿入してください。

- (4) トラクタとセットされたらスタンドを一番短い状態まで上げ、折りたたんでください。

2. トラクタ油圧取出口との接続

- 本作業機のサンプバルブの開閉は油圧仕様となっています。
- (1) 本作業機の油圧シリングは単動式で、カプラは1/2オスが取付いています。
 - (2) トラクタの油圧圧力は5.9MPa(60kgf/cm²)以上必要です。
 - (3) トラクタの油圧取出口に本作業機の油圧カプラを接続してください。

3. ユアツマンホールアタッチメントとトラクタ油圧取出口との接続

(AYM8500ユアツマンホールアタッチメント装着時)

取扱い上の注意

マンホールカップをボルトで固定したまま、油圧カプラをトラクタ外部油圧取出口に接続しないでください。タンクが破損するおそれがあります。

ユアツマンホールの開閉は、油圧仕様となっています。

- (1) ユアツマンホールは複動油圧を使用します。カプラは1/2オスが取付いています。
- (2) トラクタの油圧取出口に間違わないようカプラを接続してください。

5 パワージョイントの装着

▲ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には、損傷がないか点検してください。
- トラクタおよび作業機に着脱する時、第三者の不注意により、不意にパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。PTOを切り、トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

▲ 注意

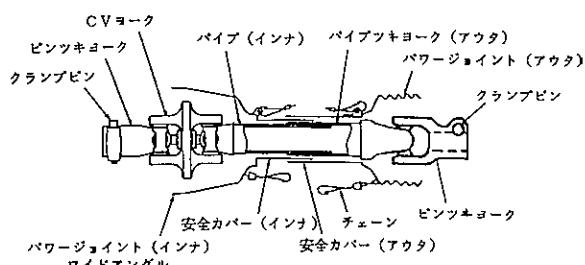
- 最伸時の重なりが100mmを下回ると、ジョイントを回転させた時、破損しケガをする事があります。
 - 最縮時の隙間が25mmよりも小さくなると、ジョイントの突き上げが起きることがあり、ジョイントの破損をまねき、ケガをする事があります。
- 適正な重なり量で使用してください

1. 長さの確認方法

- (1) 作業機をけん引しながら前進しトラクタと作業機がほぼ一直線になった状態で停止してください。
- (2) パワージョイント単体で、最縮長時の安全カバー（アウタ）端部位置を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。
- (3) パワージョイント（アウタ）からパワージョイント（インナ）を引き抜いてください。
- (4) ピン付ヨークのクランプピンを押して、パワージョイントのインナとアウタをPTO軸、P I C軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。
- (5) 安全カバー同士を重ね合わせた時、パイプ（アウタ）とパイプ（インナ）の重なり量が100mm以下の場合は、販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。
- (6) PTO軸及びP I C軸からパワージョイントのアウタとインナを取りはずしてください。
- (7) 作業機をけん引しながら旋回し、ドローバ側面とトラクタのタイヤの間隔が約20cm程度になった時、停止してください。
- (8) ピン付ヨークのクランプピンを押して、パワージョイントのインナとアウタをPTO軸、P I C軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。
- (9) 安全カバー同士を重ね合わせた時、安全カバー（アウタ）端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下の場合は、25mm間隔を保つように切断方法の手順に基づき切断してください。

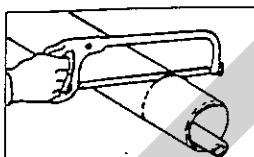
取扱い上の注意

パワージョイントを上下に重ねさせた時、トラクタのタイヤに接触し、ほぼ直線状にならない場合はドローバ側面とトラクタのタイヤの間隔が広くなるようにトラクタを移動してください。

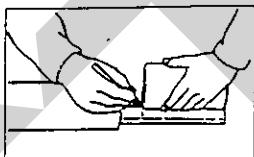


2. 切断方法

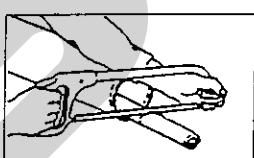
(1) 安全カバーをアウタ・インナの両方を長い分だけ切り取ります。



(2) 切り取った同じ長さをパイプの先端から計ります。



(3) パイプのアウタ・インナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。



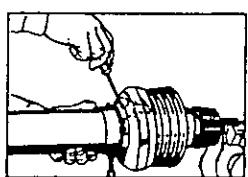
切断する時は、パイプの中にウエスを詰め、パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。

(4) 切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウタとインナを組み合わせます。

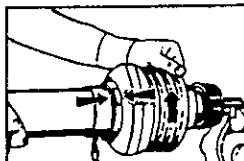
3. 安全カバーの脱着方法

(1) 安全カバーの手順

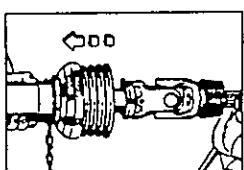
① 固定ねじを取り外してください。



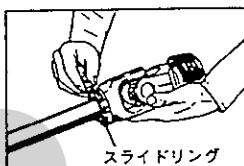
② 安全カバーを取りはずし位置へ回してください。



③ 安全カバーを引き抜いてください。

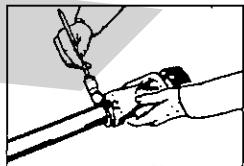


④ スライドリングを取り出してください。

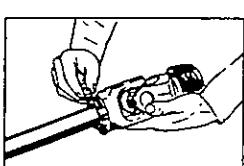


(2) 安全カバーの組立手順

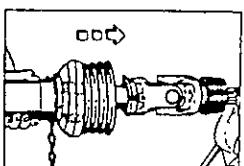
① ヨークのスライドリング溝とパイプ(インナ)に高品質のグリースを塗ってください。



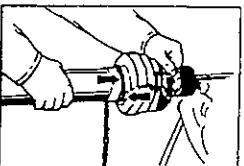
② スライドリングのつばをパイプ側にむけ、切口を開いて溝にはめてください。



③ その上に安全カバーをはめてください。



④ カバーをしっかりと止まるまで回してください。



⑤ 固定ねじを締め付けてください。

4. パワージョイントの連結

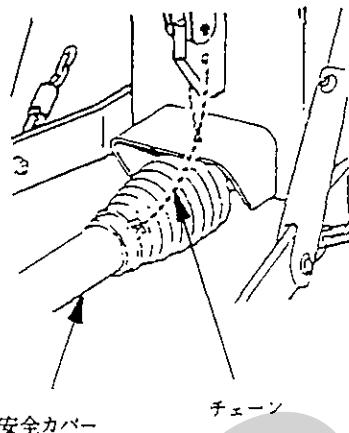
(1) ピン付きヨークのクランプピンを押して、ワイド-angle側をトラクタPTO軸に、他方をP.I.C軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

▲ 注意

- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていないと、使用中に外れ、ケガをすることがあります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

- (2) 安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。

チェーンは旋回時の動きに順応できる余裕を持たせ、また他へのひっかかりなどがないように余分なたるみを取ってください。



2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき点検を行ってください。

2. 連結部の点検

(1) ヒッチ部の点検

① トラクタのけん引ヒッチと本作業機のヒッチの連結部点検。

② ヒッチピンにはリンチピン・ベータピン等の抜け止めが確実に挿入されているか。

(2) パワージョイントの点検

① ジョイントの抜け止めのクランプピンが軸の溝に納まっているか。

② ジョイントカバーのチェーンの取付に余分なたるみはないか。また、適度な余裕があるか。

③ ジョイントカバーに損傷はないか。
損傷している時は、速やかに交換してください。

④ 不具合が見つかった時は、「1-5 パワージョイントの装着」の説明に基づき不具合を解消してください。

3. 製品本体の点検

(1) ポンプのベーン用及びギヤ用オイルが十分入っているか確認します。特にポンプのベーン用オイルはポンプの使用毎に消費されますので、運転前には必ずオイルが十分入っているか、オイルゲージで確認します。

(2) 吸入自動停止装置のボールがスムーズに作動する状態にあるか確認します。

(3) 安全弁のチェックリングを引いて、スムーズに作動することを確認します。

(4) オープンハッチ、マンホール等が完全に閉じられていることを確認します。

(5) 各部のボトルナットのゆるみを確認します。

(6) サイホンバルブ下部のコックが締っているか。(❶→レバー横向)

(7) タイヤの空気圧は正常か。標準空気圧は次表を参照ください。

型 式	T V C 3520	T V C 3530	T V C 5030	T V C 6530	T V C 8530
タイヤサイズ	13／75-16-10 P R	11L-15-8 P R	12.5 L-15-8 P R	13／75-16-10 P R	15／70-18-10 P R
空 気 圧	400kPa (4.1kg f / cm ²)	295kPa (3.0kg f / cm ²)	275kPa (2.8kg f / cm ²)	400kPa (4.1kg f / cm ²)	350kPa (3.6kg f / cm ²)

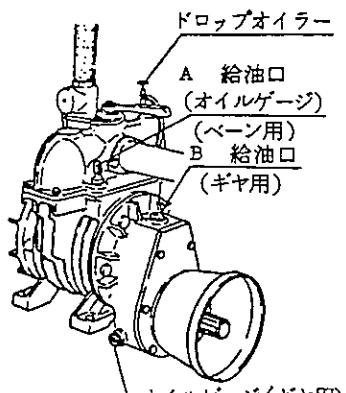
2 エンジン始動での点検

1. 油圧系統

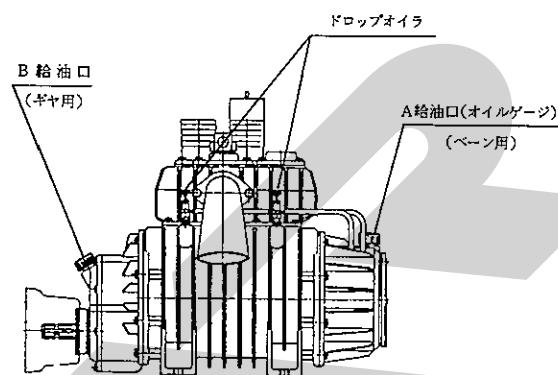
トラクタのエンジンを始動させ油圧を操作し後部ハッチに取付けのバルブ開閉がスムーズであれば異常はありません。
(サンプノズルをはずして確認します。)

3 給油箇所一覧表

- ・給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
- ・グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され新しいグリースが出るまでです。



TV C 3520、3530用ポンプ



TV C 5030、6530、8530用ポンプ

No	給油場所	箇所	潤滑油の種類	給油・交換時間	量	備考
1	ポンプ(ペーン)	1	ディーゼルエンジン オイル 10W-30	使用毎	TV C 3520、3530 1.2ℓ TV C 5030、6530 2ℓ TV C 8530 2ℓ	補充
2	ポンプ(ギヤ)	1	※ギヤオイル SAE 50 API GL-5	新規購入後 50時間 以降 200時間	250cc	交換
3	シャワジク	2	グリース2号	使用毎	適量	給脂
4	パワージョイント	2	グリース2号	使用毎	適量	給脂

※コスモ石油「コスモギヤー GL-5 80W-90」又は相当品をお使いください。

3 作業の仕方

安全を確認し慎重に作業してください。

1 本製品の使用目的

1. 本製品は、水、家畜の糞尿を汲み上げ、散布する機械です。
2. 法的規制のある薬物、危険物の運搬、散布等には使用しないでください。

2 作業の種類

▲ 警 告

- PTOを切らないでエンジンを始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。
PTOを切ってから始動してください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。
低速で作業してください。
下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。
坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。
- 突出部を折りたたまざに移動走行すると、障害物などにぶつかりケガをする事があります。
折りたたんで、移動させてください。

1. 吸入作業

本作業機には吸入バルブの取付け位置がタンク左右と後部ハッチの3ヶ所にあります。便槽の位置、通路等の立地条件に合せ、バルブを付替えて使用ください。(工場出荷時は後部ハッチに取付いています)

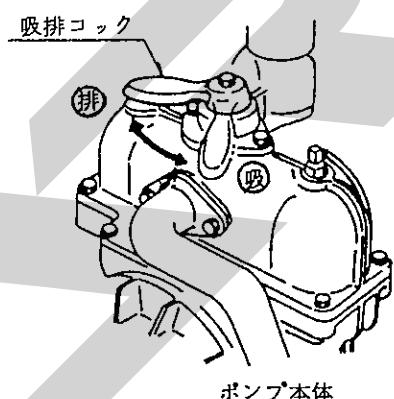
- (1) サクションホースを便槽に入れます
深い便槽では全部落込んでしまうことがあります。角材等を利用しホースと結ぶ等、落込み防止を工夫しましょう。

- (2) 本作業機にはサクションホースのワンタッチ装着装置が標準装備となっています。

サクションホースのアダプタ部をホースウェーブに乗せ、ハンドルを倒す(横向にする)とカップリングと接続されます。(取はずしは逆手順となります)

- (3) ポンプの吸排コックを④の位置にしてトラクタのエンジンを始動させます。

PTOを低速回転(200~300rpm)で入れポンプを始動させてください



☆汲上げるもの状態(粘度、水分等)により回転数、真空度を変え効率のよい作業を行ってください。

- ① 泡立がない水・尿
PTO回転数 540rpm
真空圧力 -0.05~-0.07MPa
(40~50cmHg)
- ② 泡立の多い尿・糞尿
PTO回転数 300~400rpm
真空圧力 -0.04~-0.05MPa
(30~40cmHg)
- ③ メタンガスが発生している糞尿
PTO回転数 200~300rpm
真空圧力 -0.03~-0.04MPa
(20~30cmHg)

取り扱い上の注意

泡立ちが多かったり、メタンガスが発生している尿・糞尿を汲み上げる時、ホースが長いと吸入抵抗が増加します。

必要な長さを決めて、余分な部分は切断してください。

- (4) 連成計が所定の真空圧にならばバルブを開き(レバーを上げる)吸入を始めてください。

(5) タンク前面の液面ゲージが満タンを示したらバルブを閉じ吸排コックを~~吸~~~~排~~の中間にし PTO を停止します。

取扱い上の注意

タンク内にメタン発生中の糞尿を入れたままで、20~30分以上放置する場合及び散布場所への移動中は、タンク内に圧力が掛からないように、ポンプの吸排コックを中間位置(吸と排との間)にして、タンク内に外気が出入りできる状態にしてください。

2. 排出作業

- (1) ポンプの吸排コックを~~排~~の位置にして、トラクタエンジンを始動させます。
PTOを低速回転(200~300rpm)で入れポンプを始動させてください。
- (2) 連成計が常用吐出圧力{0.07MPa(0.7kg f/cm²)}になったら、走行と同時にトラクタの油圧レバーを操作しバルブを開き散布してください。
- (3) 散布量は吐出圧力とトラクタの速度により異なります。現場の条件等に合せ適時選択してください。

3. マンホールからの注入

(AYM8500ユアツマンホールアタッチメント装着時)

取扱い上の注意

マンホールキャップをボルトで固定したまま、油圧カプラをトラクタ外部油圧取出口に接続しないでください。

タンクが破損することがあります。

お手持ちのスラリーポンプを使用してタンクに注入する場合は、タンク後部のマンホールを使用します。

マンホールを開ける時は、タンク内の圧力が0(ゼロ)になっている事を確認してから行ってください。

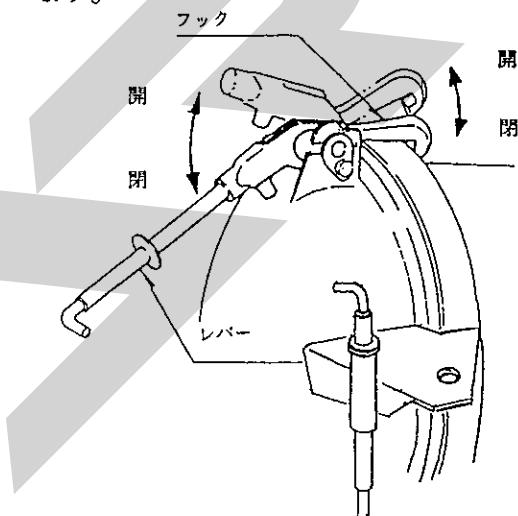
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確めて行ってください。

取扱い上の注意

安全弁のセット圧力を調整するとタンク内の圧力が上昇しそう、機体を破損させることができます。
調整しないでください。

1. オープンハッチ・サブマンホール

- (1) ハッチ、マンホールはタンク後部に備え付いているレバーでフックボルトを外して開きます。



▲ 警 告

- タンクが加圧されている時、ハッチを開けると急に開き、ケガをすることがあります。加圧されている時は、開けないで下さい。「吸入・排出」時以外は、ポンプのコックを~~吸~~・~~排~~の中間位置にして下さい。

- (2) ハッチを閉じる時は各フックボルトが均等に締まるようにフックボルトの長さを調整して締めてください。
- (3) サブマンホールの場合フックボルトは1本です。長さを調整して締め付けます。レバー使用後は元の場所に収納してください。

2. 連成計

タンク内の圧力を表示します。

外側の数字は従来の単位です。

内側の数字は国際単位(S.I.)です。

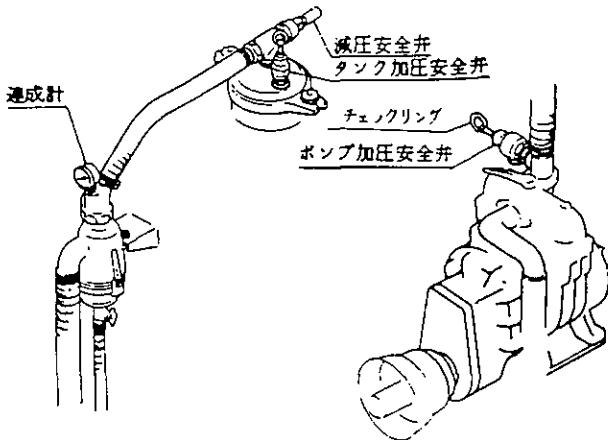
黒目盛……常用吐出圧力(排出)は、0.07MPa(0.7kg f/cm²)です。

赤目盛……常用真空度(吸入)は、-0.07MPa(50cmHg)です。

3 各部の調整

▲ 注意

- 機械の調整や、付着物の除去などを行う時、PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。



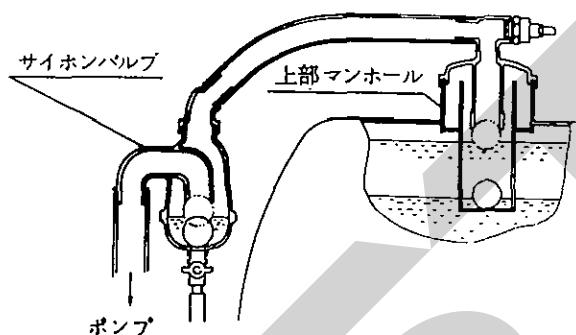
3. 吸入自動停止装置

吸入自動停止装置は、上部マンホール部と、サイホンバルブの2ヶ所に装備されています。

タンクが満タンになると、ボールが押し上げられ、吸入が自動的にストップします。

万一、糞尿が流入した場合、サイホンバルブが働き、ポンプ内への流入を防止します。

サイホンバルブ内に液がたまつたらコックを開き排出してください。



4. ポンプ

ペーン用オイルの滴下量は1分間に30~40滴が理想です。

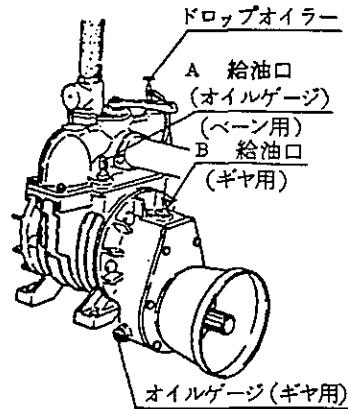
ポンプのドロップオイラ頭部のつまみを廻し、調整してください。

取扱い上の注意

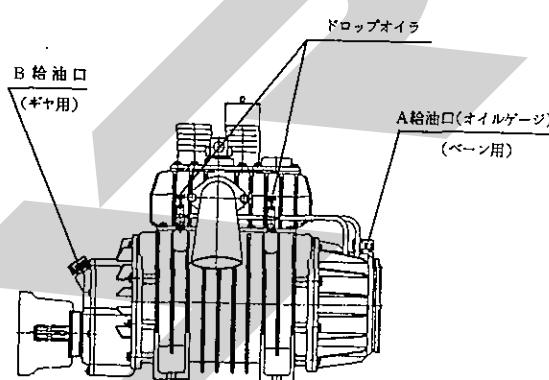
次のような使用の時は作業の所要時間が長くなりポンプ本体の表面温度が上昇します。

80°C以上にならないよう休止期間も入れ注意しながら運転してください。

- ① 標準(7m)より長いホースで吸入する時
- ② 標準より細いホースで吸入する時
- ③ 細いホースを使用して排出する時



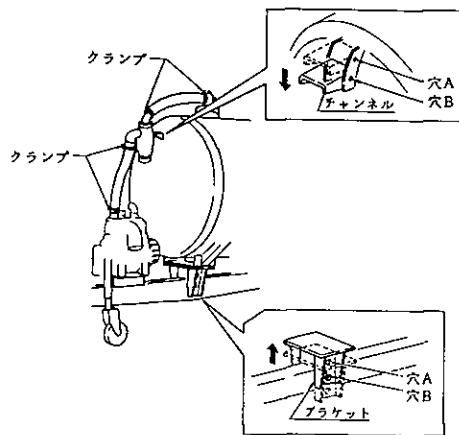
TV C3520、3530用ポンプ



TV C5030、6530、8530用ポンプ

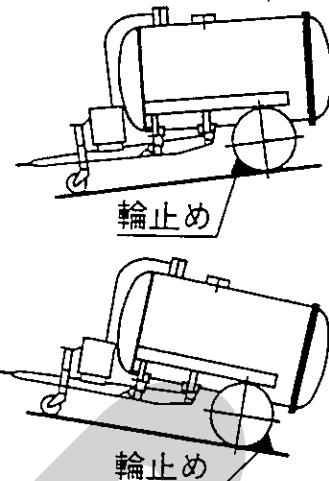
5. タンク傾斜

出荷状態よりも、タンクを傾斜させたい場合は、各クランプをゆるめ、更にチャンネル及びブラケットを穴A→穴Bへ付け替えてください。



6. 輪止め

- (1) タンクの両サイドに輪止めが装備されています。
- (2) 駐・停車は平坦な場所で行ない、輪止めを使用してください。
- (3) やむを得ず傾斜地に駐・停車する時は、図の要領で左右のタイヤに輪止めを使用し、作業機が動かないことを確認してください。
- (4) 使用後は元の位置に収納してください。



4 作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

▲ 注意

- 動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれてケガをすることがあります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。

1 作業後の手入れ

1. 使用後は、タンク内および自動吸入停止装置を水洗いしてください。
2. 吸入ホースは、糞尿槽から引き上げ、タンクのホース掛けに収納してください。
3. バルブ内の水、糞尿をすべて排出させ、バルブを開いて格納してください。
4. 冬期間、バルブおよびポンプを凍結させないように注意してください。
5. ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか。又、破損部品がないか。
異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。

6. PTO軸、P I C軸、ジョイントスライド部など塗装されていない露出部はさびを防ぐためグリースを塗布してください。

2 長期格納する時

1. 機械各部の清掃をしてください。
2. 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
3. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。
また、回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、PTO軸、P I C軸、パワージョイントスライド部にはグリースを塗布してください。
4. 塗装損傷部を補修塗装、または、油を塗布し、さびの発生を防いでください。
5. 格納は風通しの良い屋内に保管してください。
6. ポンプの内部は、外気との温度差により、結露を生じやすく、長期間放置しておくと錆を助長し、ポンプの破損原因となります。
長期間使用しない場合は、定期的（2週間ごと）にポンプを空運転して、オイルを循環させ錆を防止してください。

5 点検・整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。

機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下で、ケガをする事があります。
補修もしくは部品交換してください。
継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

1 点検整備一覧表

時 間	チ ケ ッ ク 項 目	処 置
新品使用 1 時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使用後45～50時間	ポンプギヤ用	オイル交換（以降は200時間毎交換）
使 用 每 (始業終業点検)	① 機械の清掃 ② ポンプのベーン用オイル ③ 部品脱落・破損部 ④ 各部のボルト・ナットの緩み ⑤ 各部油もれ ⑥ 各部の油脂類 ⑦ タイヤ空気圧	補 充 補充、交換 増し締め シールチェック、破損時交換 給油箇所一覧表に基づき給油、給脂 各部の点検に基づきチェック
シーズン終了後	ポンプ ① 各部の破損、摩耗 ② 各部の清掃 ③ 各部の給油、給脂 ④ 塗装損傷部	2週間毎にポンプを回転させ、 オイルを循環させる 早めの部品交換 給油箇所一覧表に基づき給油、給脂 塗装または油塗布

6 不調時の対応

1 吸入時の不調

通常、常用真空圧及び吐出圧になるには1分間前後の時間がかかります。

吸入状態でPTO回転後数秒で常用真空圧に達する時、

- (1) タンク内の自動吸入停止装置が働いています。(ボールが吸付いている)
タンク内に圧力が残っています。
- (2) 一度ポンプの吸排コックを~~開~~にし、数秒間PTOを回転させると吸付いているボールがはなれます。
- (3) PTOを停止させポンプの吸排コックをゆっくり~~閉~~の中間位置にし、タンク内の圧力を排出します。
- (4) 圧力が排出され連成計の圧力ゲージが「0」を指したら、吸排コックを~~閉~~にし、「3-2-1吸入作業」の手順に基づき作業してください。
上記以外の不具合が発生したら、「不調処置一覧表」に基づき処置してください。

2 不調処置一覧表

▲注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- PTOおよびエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。
PTOを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっている事を確かめて行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下で、ケガをする事があります。
補修もしくは部品交換してください。
継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

症 状	原 因	処 置
サクションホースのアダプタとカップリング部からエアーをすう	押え付け不足	フォークエンドで調整する
ポンプ異常発熱	① オイル量が不足 ② サイドキャップとベーンのスキマ不足 ③ ベアリング、ギヤ、シャフト損傷 ④ 標準以外のホース（径、長さ）で長時間作業した時	適正量までオイルを注入する。 ポンプとサイドキャップの間に0.1～0.3mmのシムを入れる 部品を交換する 休止させる
タンク満タンに汲めない	① サクションホースとアダプタ継目からのエアー吸込み ② 発酵過程でメタンガスが発生している	クランプの増締（シール剤注入） PTO回転数を下げる（200～300rpm） 真空圧力を下げる（-0.03～-0.04MPa）
オープントンハッチ、サブマンホールからエアー漏れ	① フック締付け不足 ② パッキン損傷	フックをはずしフックボルトの長さ調整し再度締め直す パッキン交換
連成計の圧力ゲージが「0」にもどらない	① ポンプの吸排レバーが回りにセットされている ② 連成計故障 ③ 安全弁が作動不良	ポンプの吸排コックを回りの中間位置にする 部品交換する 安全弁のチェッククリングを引いて作動確認する 部品交換する
吸入時、数秒で常用真空圧になる	タンク内の自動停止装置が働いている（ポールが吸付いている）	吸排コックを回りにし、PTOを数秒回転させる（吐出圧）PTOを停止させ、吸排コックをゆっくり回りの中間位置にしタンク内の圧力を排出する
ベーン用オイルが出ない	① オイルが不足 ② ホース継手、ドロップオイラが詰っている ③ ホースがやぶれてる ④ ポンプのベーン用オイルタンク内のホースがホース継手からはずれている	適正量までオイルを注入する 掃除する ホースを交換する ホースを付ける

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談下さい。

1. 製品名
2. 部品供給型式（型式）
3. 製造番号
4. 故障内容（できるだけ詳しく）

オプションについて

1. 本作業機のオプションとしてAYS6000油圧オートサクションユニット（油圧式の自動吸入装置）を用意しております。
2. 本ユニットの昇降には複動シリングを使用しています。（トラクタには取出し口が必要です）
3. トラクタ座上で油圧レバーを操作するだけでサクションホースが接続される便利な装置です。是非ご利用ください。

7 部品表

部品のご注文について

1. 部品ご注文の際は、下記項目をご連絡ください。

- ① 製品名
- ② 部品供給型式（型式）
- ③ 部品名称（部品表を参照してください）
- ④ 部品番号（ " ）
- ⑤ 個数（ " ）

※部品供給型式は取説・部品表表紙および本体に貼付のネームプレートに表示しています。

2. 部品名称欄に「付」と表示している部品は、該当見出番号の部品が付属されております。

（例）

見出番号	部品番号	部分名称	個数
1	92602	シャフト	<input checked="" type="checkbox"/> 付
2	ONAS6	グリースニップル；A-M6×1F	6

このシャフトには、見出番号2のグリースニップルが取り付けられている事を示します。

3. 使用型式により、部品番号や個数が異なる場合は、部品名称欄に注記していますのでご注意ください。

4. ボルト・コネジ・ナット類の部品番号末尾に記載されている英文字は以下のことを表しております。

（例）BZ0815A (G)

(メッキ仕上げ)

A ; ナット・スプリングワッシャ付

D ; ナット2個付

N ; ナット付

P ; ワッシャ付

W ; スプリングワッシャ付

5. 個数欄の・は、以下のことを表しております。

…シムなど、組み込まれている個数が製品個々により異なる部品。

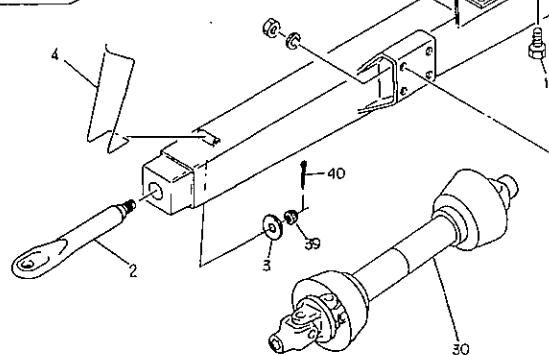
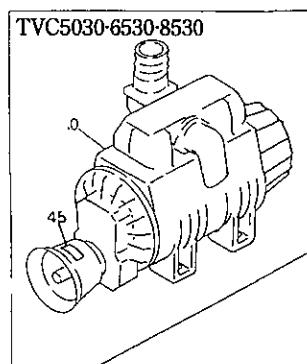
…アセイ品に含まれる部品で、単品では供給しない部品。

補修部品の供給年限について

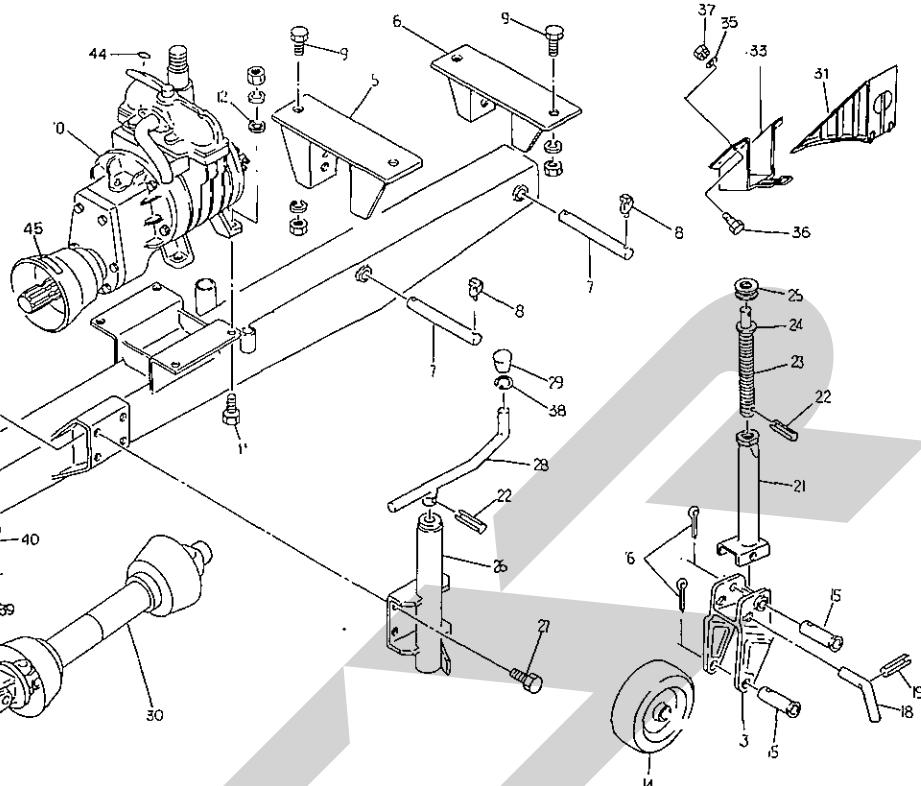
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカー ドローバ・スタンド・ポンプ

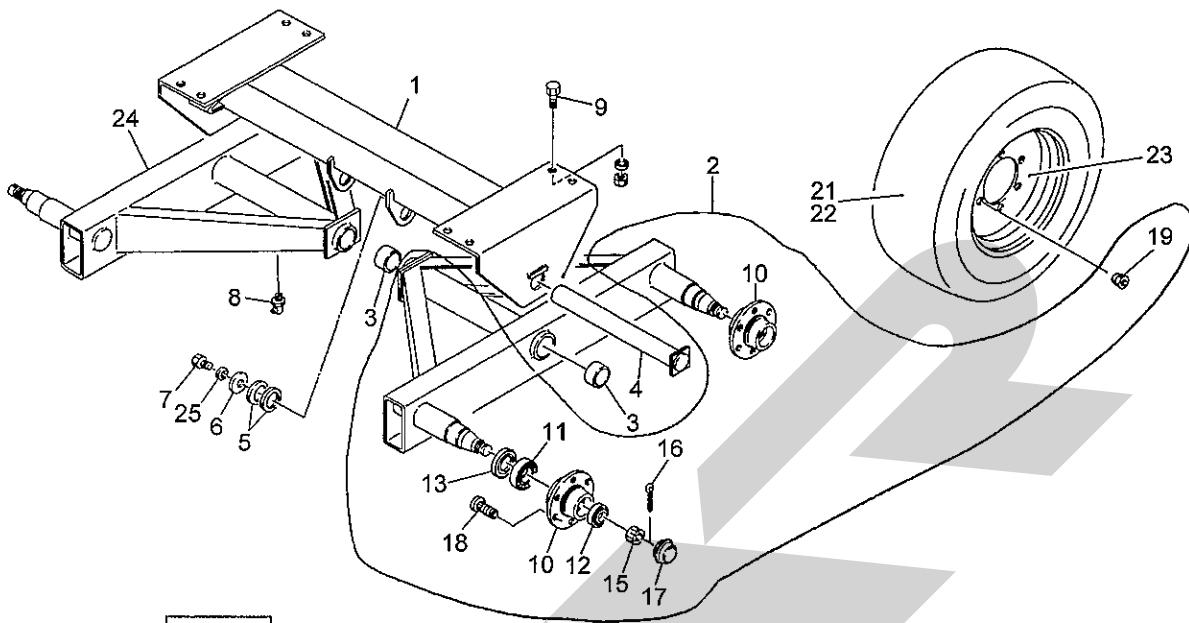


12426-6



番号	部品番号	部品名称	個数	番号	部品番号	部品名称	個数
2	0906571004	ヒッチカン；φ60	1	27	BZ1230AG	ボルト；M12×30 (8.8)	4
3	090658100M	プレート	1	28	58636	ハンドル	1
4	068168100M	ブラケット	1	29	66724	グリップ	1
5	0820734004	ブラケット；F	1	Asy	103276Asy	スタンド(クミ) (見13~26、28、29、38付)	1
6	0820741004	ブラケット；R	1	30	6310-1	パワージョイント；WM-75	1
7	82075	ピン；φ32	2	31	102737	ホイールロック	2
8	00739	リングピン；9	4	33	102889	キャリア	2
9	BZ2050AG	ボルト；M20×50 (8.8)	8	35	44097	ワッシャ；8	8
10	0823613000	ポンプ；6500型 TVC3520、3530	1	36	BZ0816G	ボルト；M8×16 (8.8)	8
	0823634000	ポンプ；10000型 TVC5030、6530	1	37	NP08G	スプリングナット；M8	8
	1045081000	ポンプ；12000型 TVC8530	1	38	58640	バネ	1
11	BZ1450AG	ボルト；M14×50 (8.8)	4	39	00714	キャッスルナット；M36×1.5	1
12	72968	ワッシャ；14	4	40	PC6356G	ワリピン；6.3×56	1
13	103278	アーム	1	44	31872	吸排指示ラベル	1
14	103277	ホイール	1	45	88978	ラベル；500~540rpm	1
15	68131	ピン	2				
16	PC5036G	ワリピン；5×36	2				
18	58642	ピン	1				
19	PS6025	スプリングピン；6×25	1				
21	63725	ホルダ	1				
22	PS8032	スプリングピン；8×32	2				
23	63727	シャフト	1				
24	58616	ザガネ	1				
25	J51104	スラストベアリング；51104	1				
26	66372	ブラケット	1				

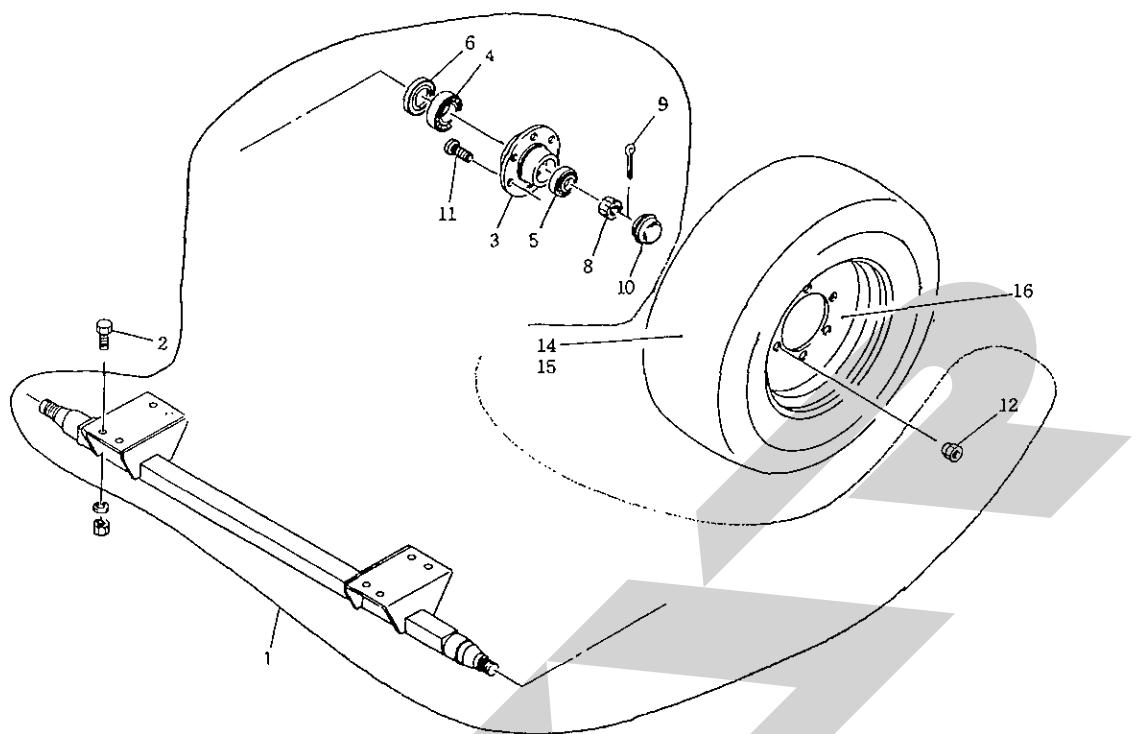
TVC3530・5030・6530・8530 バキュームカー シャジク・タイヤ



12428-8

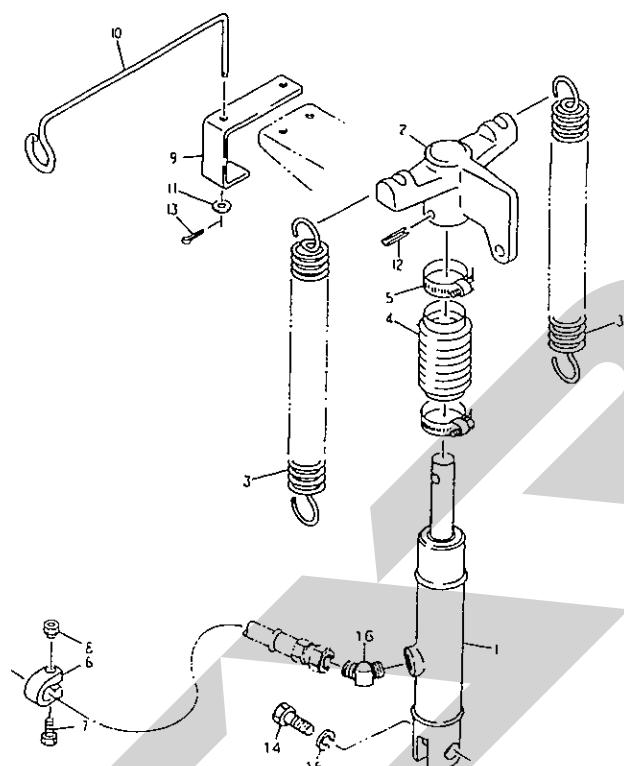
番号	部品番号	部品名称	個数	番号	部品番号	部品名称	個数	
1	1043701004	シャジク	1	19	00884	ホイールナット ; M18×1.5	TVC8530	32
	1044401004	シャジク	1	21	00384	タイヤ ; 11L-15-8PR	TVC3530	4
2	1172250004	ハブツキシャジク ; 980L	1		00382	タイヤ ; 12.5L-15-8PR	TVC5030	4
		TVC3530,5030,6530			00480	タイヤ ; 13.0/75-16-10PR	TVC6530	4
	1242130004	ハブツキシャジクCP ; 1080L	1		00771	タイヤ ; 15/70-18-10PR	TVC8530	4
3	0730921000	メタル	4	22	00389	チューブ ; 11L-15	TVC3530	4
4	0754681004	ピン	2		00388	チューブ ; 12.5L-15	TVC5030	4
5	066208100M	ワッシャ ; φ51	2		00481	チューブ ; 13.0/75-16	TVC6530	4
6	128113000M	ワッシャ ; 21×65	2		00772	チューブ ; 15/70-18	TVC8530	4
7	BZ20045	ボルト 8.8 M20×45	2	23	102973	ホイール ; 10J×15	TVC3530,5030	4
8	ONBS1	グリースニップル ; B-PT1/8	2		102974	ホイール ; 11×16	TVC6530	4
9	BZ1650AG	ボルト ; M16×50 (8.8)	8		000955000F	ホイール ; 13×18	TVC8530	4
10	00880	ハブ ; F90×120	4	24	1172280004	ハブツキシャジクCP;780R		
	1242150020	ハブ	4			TVC3530,5030,6530		1
11	J30213	テーパベアリング ; 30213	4		1242140004	ハブツキシャジクCP;1080R	TVC8530	1
12	J30210	テーパベアリング ; 30210	4	Asy	00862	タイヤ(クミ) ; 11L-15-8PR		4
13	00881	シールワッシャ ; 65×120	4			⑨21~23組立品	TVC3530	
15	00882	キャッスルナット ; M39×2.0	4	Asy	00863	タイヤ(クミ) ; 12.5L-15-8PR		4
16	PC6356G	ワリピン ; 6.3×56	4			⑨21~23組立品	TVC5030	
17	00883	キャップ ; 90	4	Asy	00864	タイヤ(クミ) ; 13.0/75-16-10PR		4
18	00878	ボルト ; M18×1.5×49	24			⑨21~23組立品	TVC6530	
		TVC3530,5030,6530		Asy	0009540000	タイヤAsy ; 15.0/70-18-10PR		4
	00878	ボルト ; M18×1.5×49	32			⑨21~23組立品	TVC8530	
19	00884	ホイールナット ; M18×1.5	24	25	WSA20	バネザガネ 3ゴウ M20		2
		TVC3530,5030,6530						

TVC3520 バキュームカー
シャジク・タイヤ



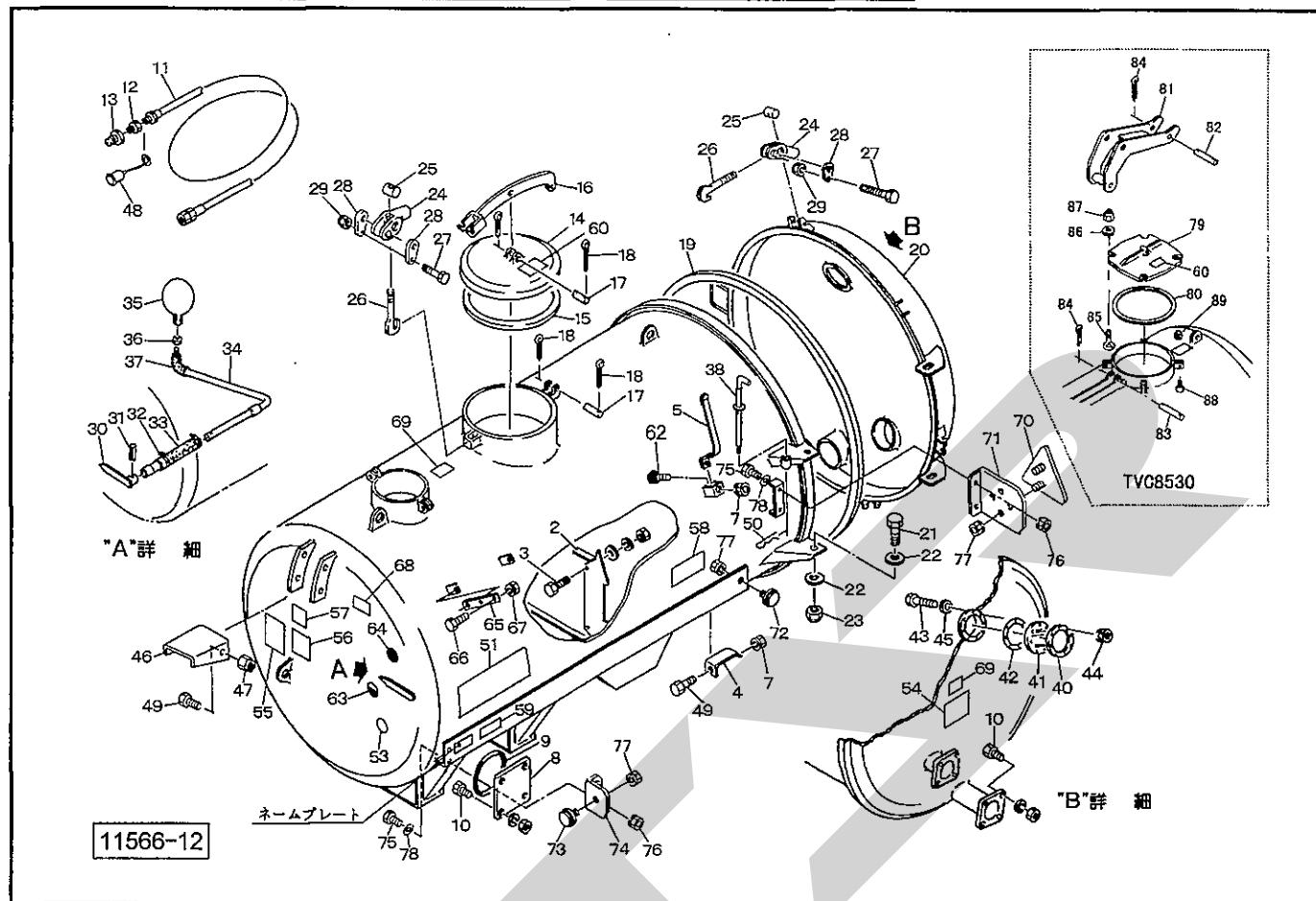
12427 - 1

TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカーユアツ



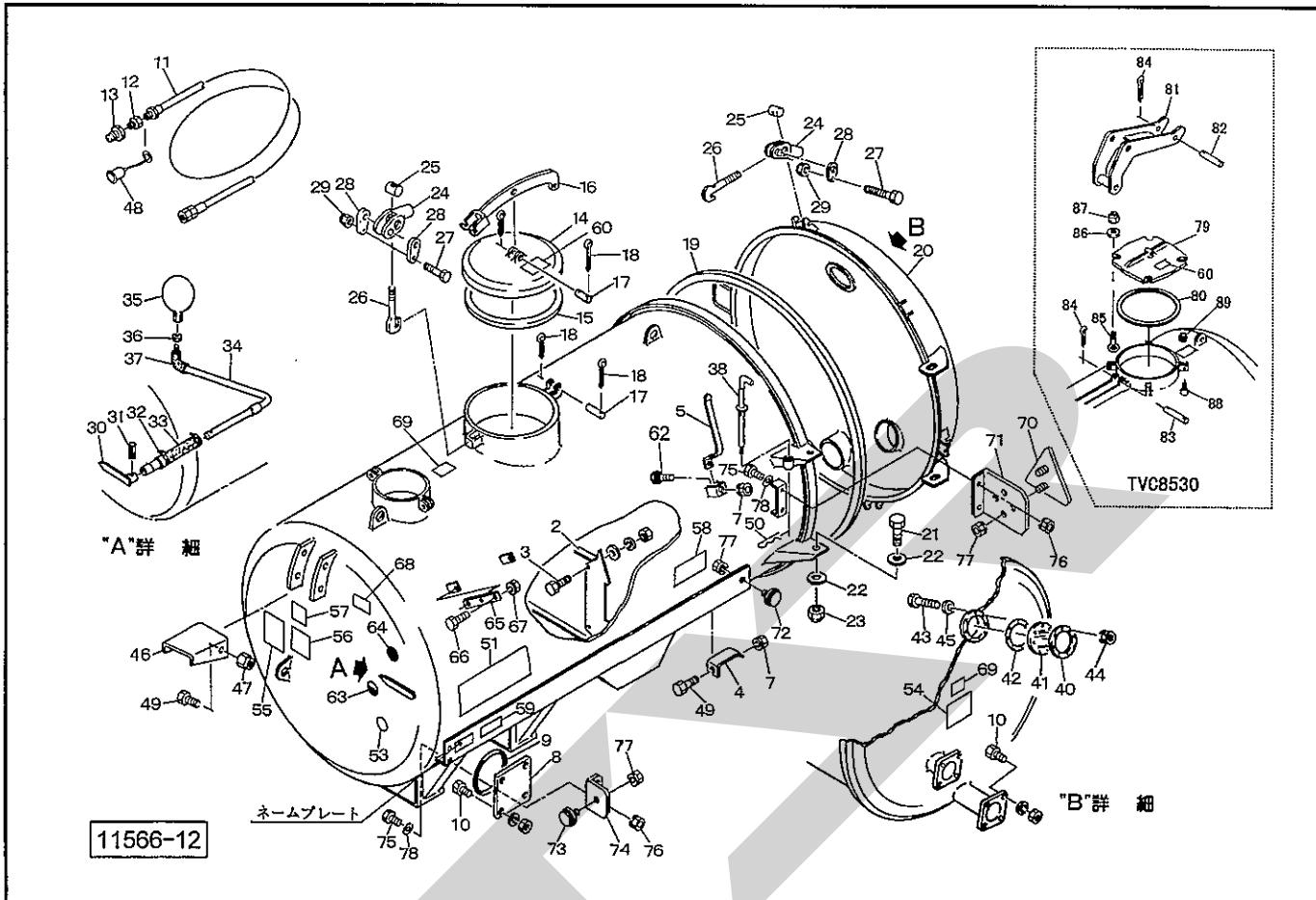
12429

TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカー タンク・ハッチ・ゲージ



番号	部品番号	部品名称	個数	番号	部品番号	部品名称	個数
2	082013200M	プレート	☆ 1	24	81923	レバー	☆ 10
	104507	プレート	★ 1		81923	レバー	TVC5030,6530 13
3	BC1025AP	ボルト ; M10×25 (SUS304)	4		81923	レバー	TVC8530 12
4	81556	ハッチガイド	1	25	81922	コマ	☆ 10
5	104511	ブラケット	4		81922	コマ	TVC5030,6530 13
7	NP10G	スプリングナット ; M10	5		81922	コマ	TVC8530 12
8	82014	キャップ	2	26	58593	フックボルト	☆ 10
9	ORG155	Oリング ; G155	2		58593	フックボルト	TVC5030,6530 13
10	BZ1235AG	ボルト ; M12×35 (8.8)	12		58593	フックボルト	TVC8530 12
11	72628	ホース ; 1/4×8000 TVC3520,3530,5030	1	27	BA0880G	ボルト ; M8×80	☆ 10
	84131	ホース ; 1/4×9000 TVC6530、8530	1		BA0880G	ボルト ; M8×80	TVC5030,6530 13
12	KB4020	ブッシング ; 1/2×1/4	1		BA0880G	ボルト ; M8×80	TVC8530 12
13	CLF40M	カプラ (オス) ; 1/2	1	28	81924	プレート	☆ 20
14	0820581004	サブマンホールキャップ TVC5030,6530☆	1		81924	プレート	TVC5030,6530 26
15	82059	パッキン ; φ326 TVC5030,6530☆	1		81924	プレート	TVC8530 24
16	0820601004	キャップサポート TVC5030,6530☆	1	29	NP08G	スプリングナット ; M8	☆ 10
17	82033	ピン ; φ15×61 TVC5030,6530☆	2		NP08G	スプリングナット ; M8	TVC5030,6530 13
18	PC3232G	ワリピン ; 3.2×32 TVC5030,6530☆	4		NP08G	スプリングナット ; M8	TVC8530 12
19	82065	パッキン ; 1300 ☆ 1	1	30	73037	ゲージ	1
	104510	パッキン ; 1500 ★ 1	1	31	PS5020	スプリングピン ; 5×20	1
20	082064600M	カガミ ; 1300 ☆ 1	1	32	58654	ゴムチューブ	1
	104388100M	カガミ ; 1500 ★ 1	1	33	64230	ワイヤクランプ ; 23	2
21	BA2060G	ボルト ; M20×60	2	34	81935	アーム	1
22	WRA20G	ワッシャ ; M20	4	35	58656	ゲージフロート	1
23	NN20G	ナイロンナット ; M20	2	36	NAB12G	ナット ; M12	1

TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカー タンク・ハッチ・ゲージ

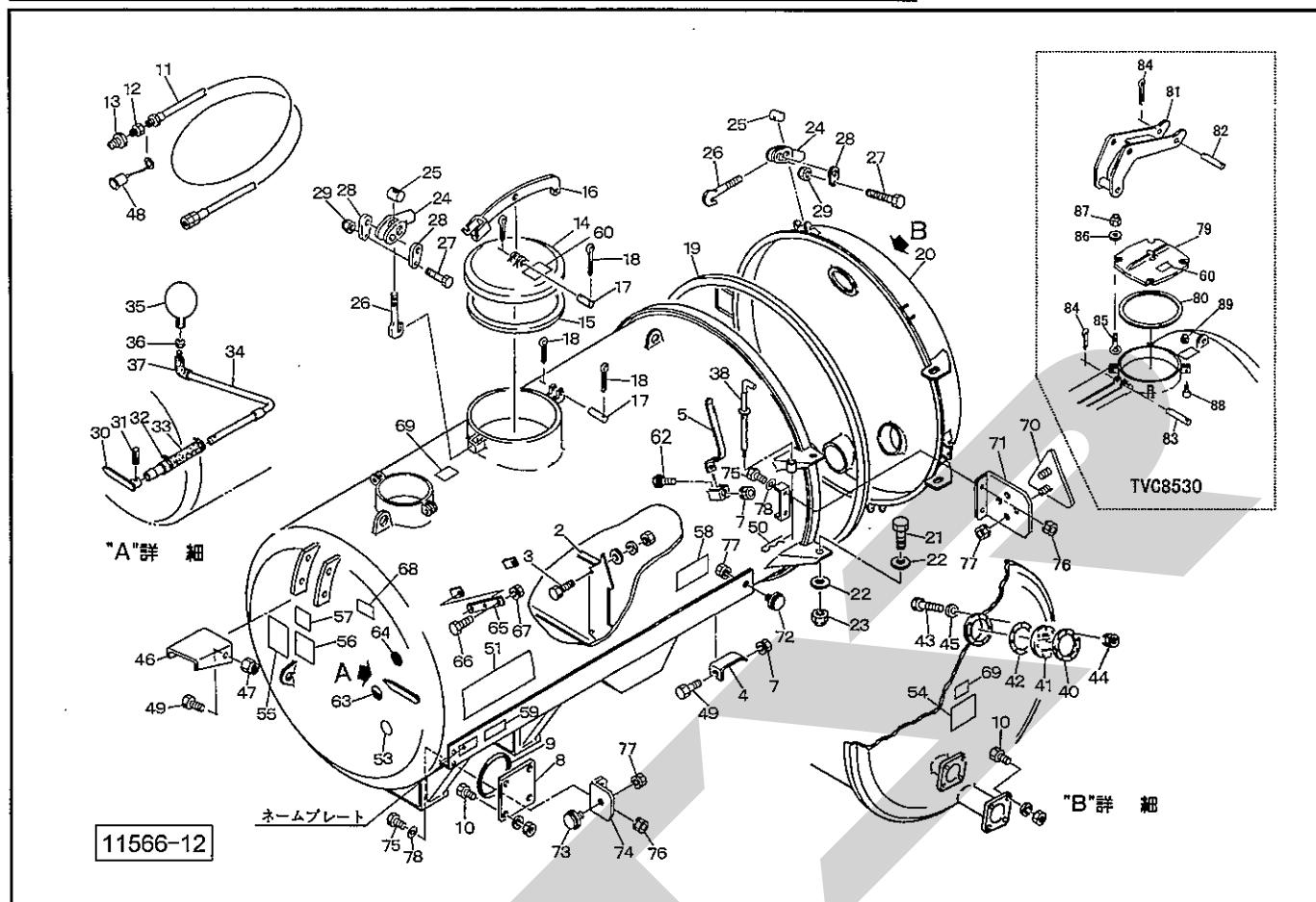


番号	部品番号	部品名称	個数	番号	部品番号	部品名称	個数	
37	64658	ビニールチューブ	1	59	102220	ラベル；ワドメ	1	
38	064143500M	レバー	1	60	83593	チュウユマーク；マンホール	1	
40	0650811004	プレート	1	62	BZ1030G	ボルト；M10×30	4	
41	0650821000	レベルゲージ	1	63	106812	マーク；液面-2	1	
42	0650831000	ガスケット	1	64	106813	マーク；液面-3	1	
43	BC0845	ボルト；M8×45 (SUS304)	8	65	106933	プレート	TVC3520、3530	
44	NP08G	スプリングナット；M8	8	66	BA1030G	ボルト；M10×30	TVC3520、3530	
45	WA08	ワッシャ；M8 (Aℓ)	8	67	NP10G	スプリングナット；M10	TVC3520、3530	
Asy	81923Asy	レバー(クミ) (24~29付)	1式	68	106164	ラベル；ケイコク1	1	
46	0839902004	チャンネル	1	69	106460	ラベル；ケイコク46	2	
47	NP10G	スプリングナット；M10	2	70	00930	ハンシャキ；R150-TR	(77付)	
48	00778	カプラキャップ；1/2	1	71	109734	ブラケット；150TR	2	
49	BZ1025G	ボルト；M10×25 (8.8)	3	72	00932	ハンシャキ；R60-CI	(77付)	
50	00088	ベータピン；19×3	1	73	00934	ハンシャキ；Y-60CI	(77付)	
51	1232810000	STARマークラベル；63	★ 2	74	109735	ブラケット；60CI	2	
	1242670000	STARマークラベル；80	★ 2	75	BZ0820G	ボルト；M8×20	8	
53	106811	マーク；液面-1	1	76	NP08G	スプリングナット；M8	8	
54	0585411000	チュウユマーク	1	77	NP05G	スプリングナット；M5	8	
55	0641622000	チュウイラベル	1	78	WRA08	ヒラザガネ；M8	8	
56	35576	ポンピュウユラベル	1	79	1129350004	マンホールキャップ	TVC8530	
57	75554	安全弁注意ラベル	1	80	1130660000	パッキン；Φ522	TVC8530	
58	1243290000	ラベル；3500	TVC3520、3530	2	81	1129360004	キャップサポートCP	TVC8530
	1243300000	ラベル；5000	TVC5030	2	82	113284000M	ピン；20×124	TVC8530
	1243310000	ラベル；6500	TVC6530	2	83	113285000M	ピン；20×152	TVC8530
	1243320000	ラベル；8500	TVC8530	2	84	PC050045	ワリピン；5×45	TVC8530

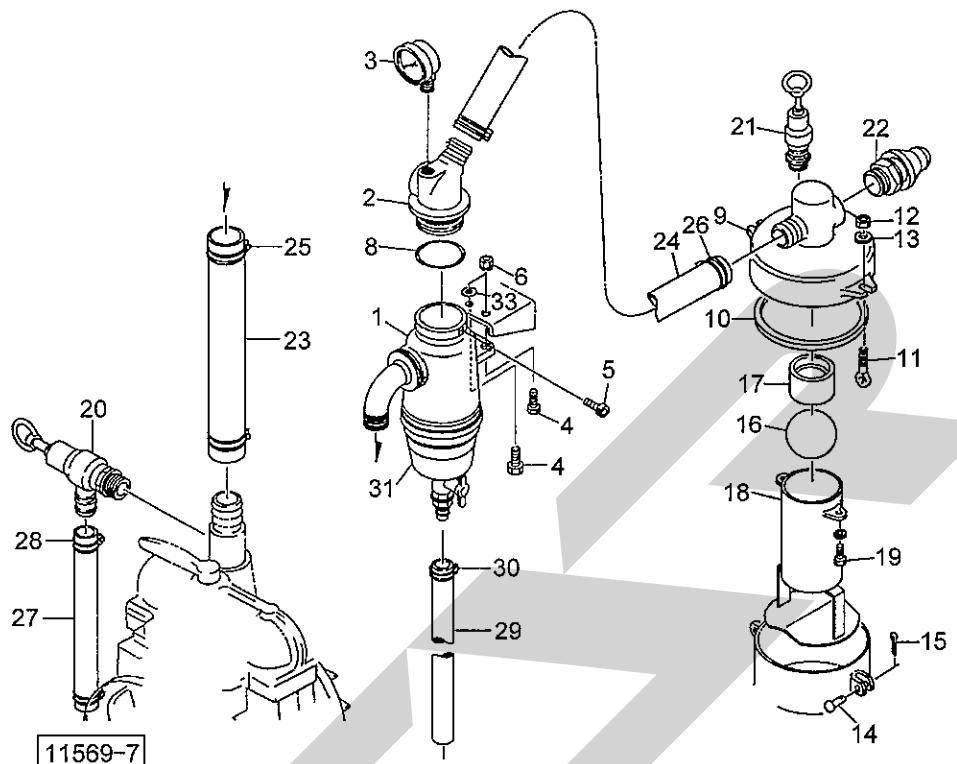
★ TVC3520・3530

★ TVC5030・6530・8530

TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカーボン
タンク・ハッチ・ゲージ

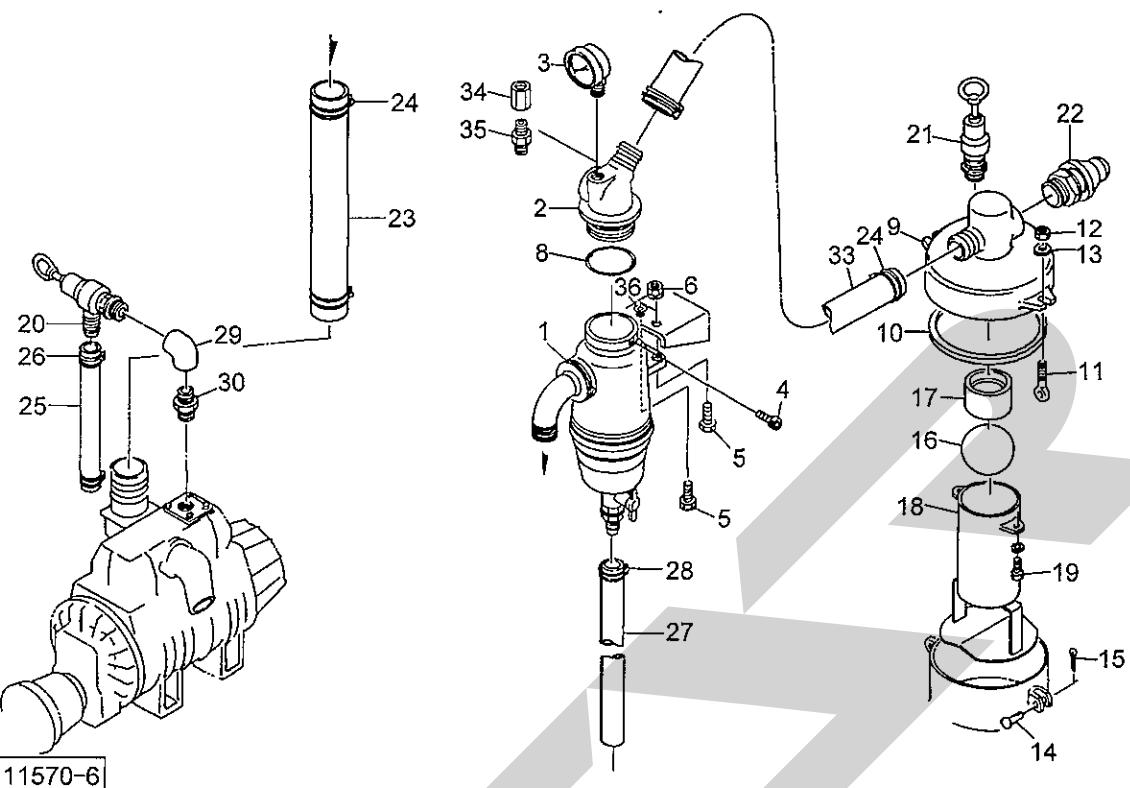


TVC3520・3530 バキュームカー アンゼンソウチ・ホース



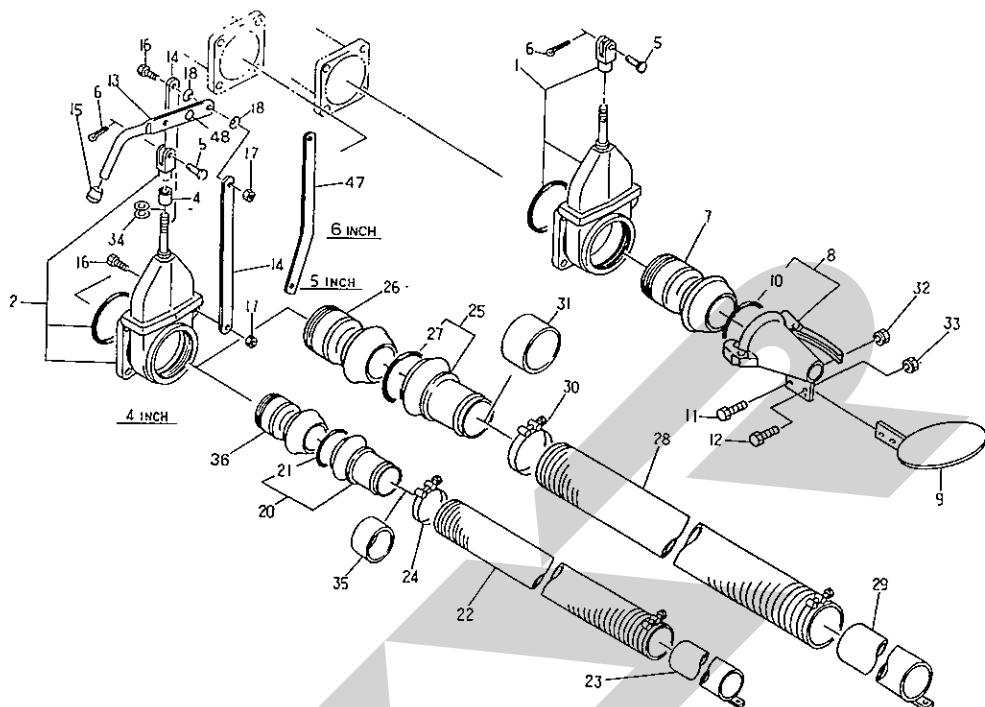
番号	部品番号	部品名称	個数	番号	部品番号	部品名称	個数
1	0976822000	サイホンバルブ；φ60	1	27	106984	ホース；φ50×650	1
2	97684	45°パンチニップル	1	28	35574	ワイヤクランプ；58	2
3	0318901000	レンセイケイ；PT3/8	1	29	82026	ホース；φ18	1
4	BZ1035G	ボルト；M10×35 (8.8)	2	30	HB024	ワイヤクランプ；24	1
5	BH0816G	ロッカクアナボルト；M8×16	2	31	97687	サイホンアッパケース	1
6	NP10G	スプリングナット；M10	2	33	44098	ワッシャ；10	1
8	97690	Oリング	1				
9	81931	マンホールキャップ；45	1				
10	81932	パッキン；φ200	1				
11	24049	アイボルト	2				
12	NZ12G	ナット；M12 (8)	2				
13	042783600M	ワッシャ；12	2				
14	058671100M	ピン；φ10×29	2				
15	PC3216G	ワリピン；3.2×16	2				
16	0586832000	ストップボール	1				
17	82034	ボールウケ	1				
18	95707	パイプ	1				
19	BC1020W	ボルト；M10×20 (SUS304)	2				
20	106736	アツリョクベン；1½"	1				
21	106734	アツリョクベン；1"	1				
22	0755934000	シンクウベン；1 ½"	1				
23	83424	ホース；φ60	1				
24	97799	ホース；φ45	1				
25	00715	ワイヤクランプ；75	2				
26	35574	ワイヤクランプ；58	2				

TVC5030・6530・8530 バキュームカー
アンゼンソウチ・ホース

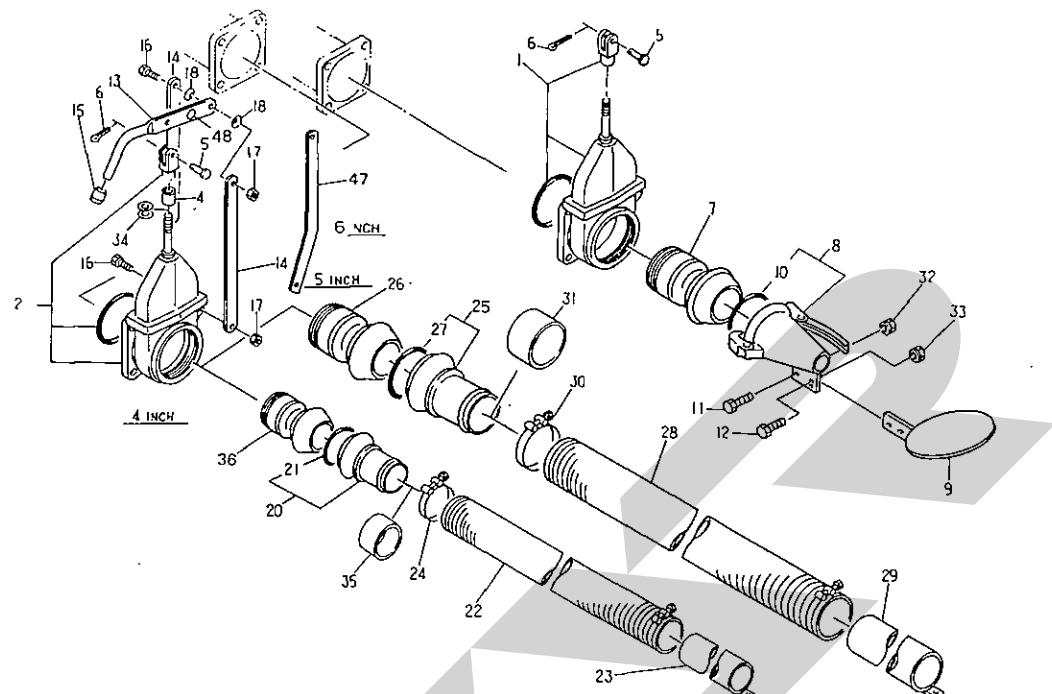


番号	部品番号	部品名称	個数	番号	部品番号	部品名称	個数
1	97683	サイホンバルブ；φ80	1	27	82026	ホース；φ18	1
2	97685	45°パンチニップル；φ80	1	28	HB024	ワイヤクランプ；24	1
3	31890	レンセイケイ；PT3/8	1	29	82364	エルボ；PT2	1
4	BH0816G	ロッカクアナボルト；M8×16	2	30	82365	ニップル；PT2	1
5	BZ1040G	ボルト；M10×40 (8.8)	2	31	97687	サイホンアッパケース	1
6	NP10G	スプリングナット；M10	2	33	1045661000	ホース；φ80×780	1
8	97690	Oリング	1	34	KS30	ソケット；PT3/8	1
9	82090	マンホールキャップ；80	1	35	KN30	ニップル；PT3/8	1
10	81932	パッキン；φ200	1	36	44098	ワッシャ；10	1
11	24049	アイボルト	2				
12	NZ12G	ナット；M12 (8)	2				
13	042783600M	ワッシャ；12	2				
14	058671100M	ピン；φ10×29	2				
15	PC3216G	ワリピン；3.2×16	2				
16	0586832000	ストップボール	1				
17	82034	ボールウケ	1				
18	95707	パイプ	1				
19	BC1020W	ボルト；M10×20 (SUS304)	2				
20	106737	アツリョクベン；2"	1				
21	106734	アツリョクベン；1"	1				
22	0755934000	シンクウベン；1"	1				
23	1045141000	ホース；φ80×830	1				
24	104435	クランプ；92	4				
25	0823693000	ホース；φ50	1				
26	35574	ワイヤクランプ；58	2				

TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカーサンプ・サクションホース

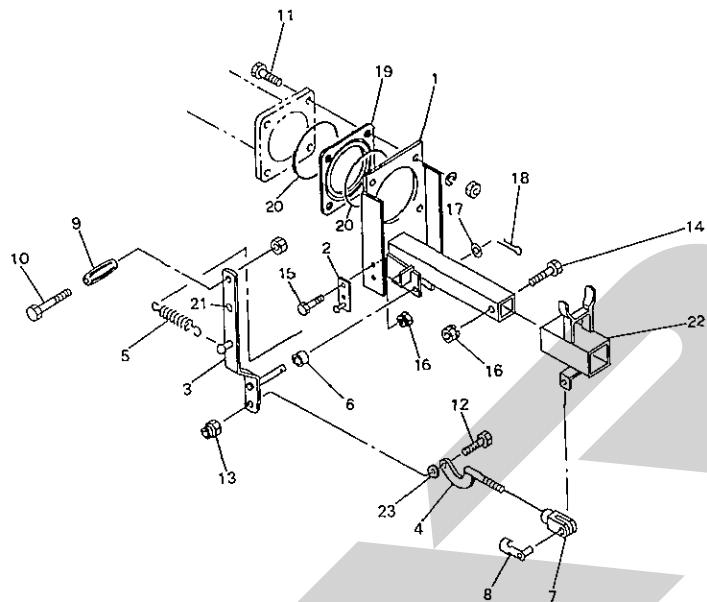


TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカーサンプ・サクションホース



11575-5

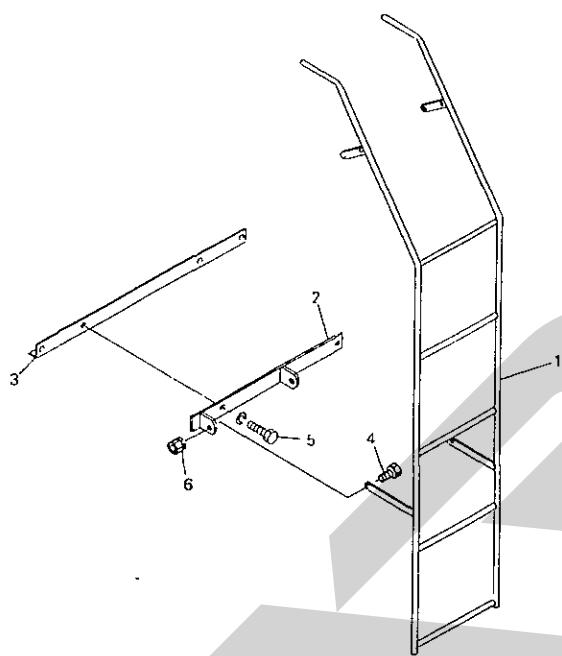
TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカー
サクション



12599-4

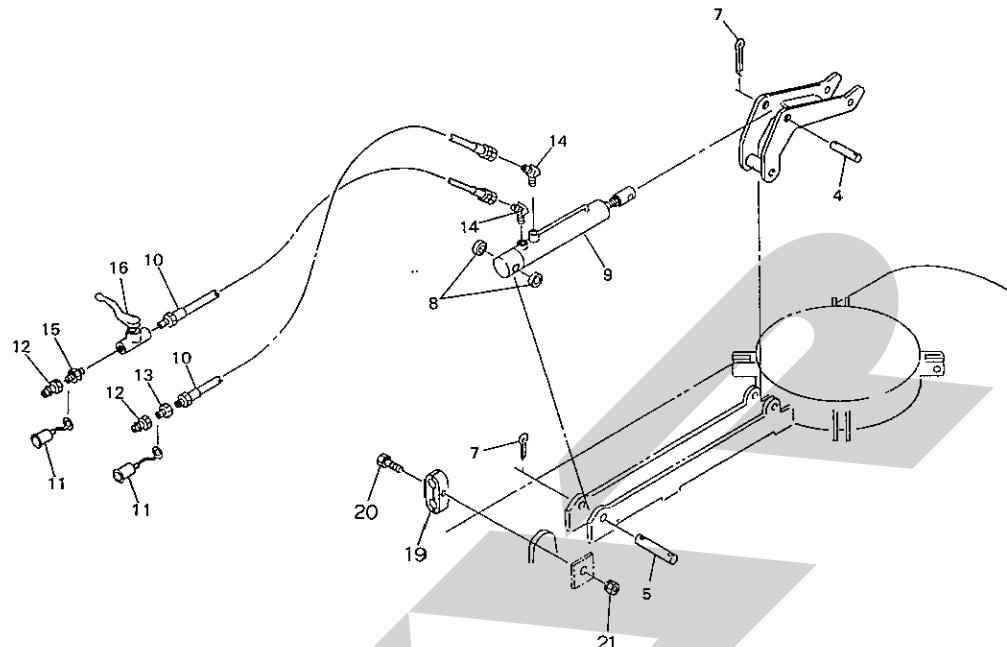
番号	部品番号	部品名称	個数	番号	部品番号	部品名称	個数
1	109247100M	プラケットCP	1				
2	109164	プラケット	1				
3	104403	ハンドル	1				
4	124746000M	レバーCP	1				
5	84083	スプリング；	1				
6	79013	カラー	1				
7	93754	フォークエンド；12×48	1				
8	93755	ピン；12×48	1				
9	24118	グリップ	1				
10	BZ1290NG	ボルト；M12×90 (8.8)	1				
11	BZ1255AG	ボルト；M12×55 (8.8)	4				
12	BZ1245G	ボルト；M12×45 (8.8)	1				
13	NN12G	ナイロンナット；M12	1				
14	BZ1065G	ボルト；M10×65 (8.8)	1				
15	BZ1030G	ボルト；M10×30 (8.8)	2				
16	NP10G	スプリングナット；M10	3				
17	WRA16G	ワッシャ；M16	1				
18	PC4025G	ワリピン；4×25	1				
19	105837	プレート	1				
20	ORG160	Oリング；G160	2				
21	106810	ラベル；着脱	1				
22	109167	ホースウケ；4"	1				
	109166	ホースウケ；5"	1				
	109165	ホースウケ；6"	1				
23	070526100M	カラー；10A×10	1				

TVC3520・3530・5030・6530・8530 バキュームカーハシゴ



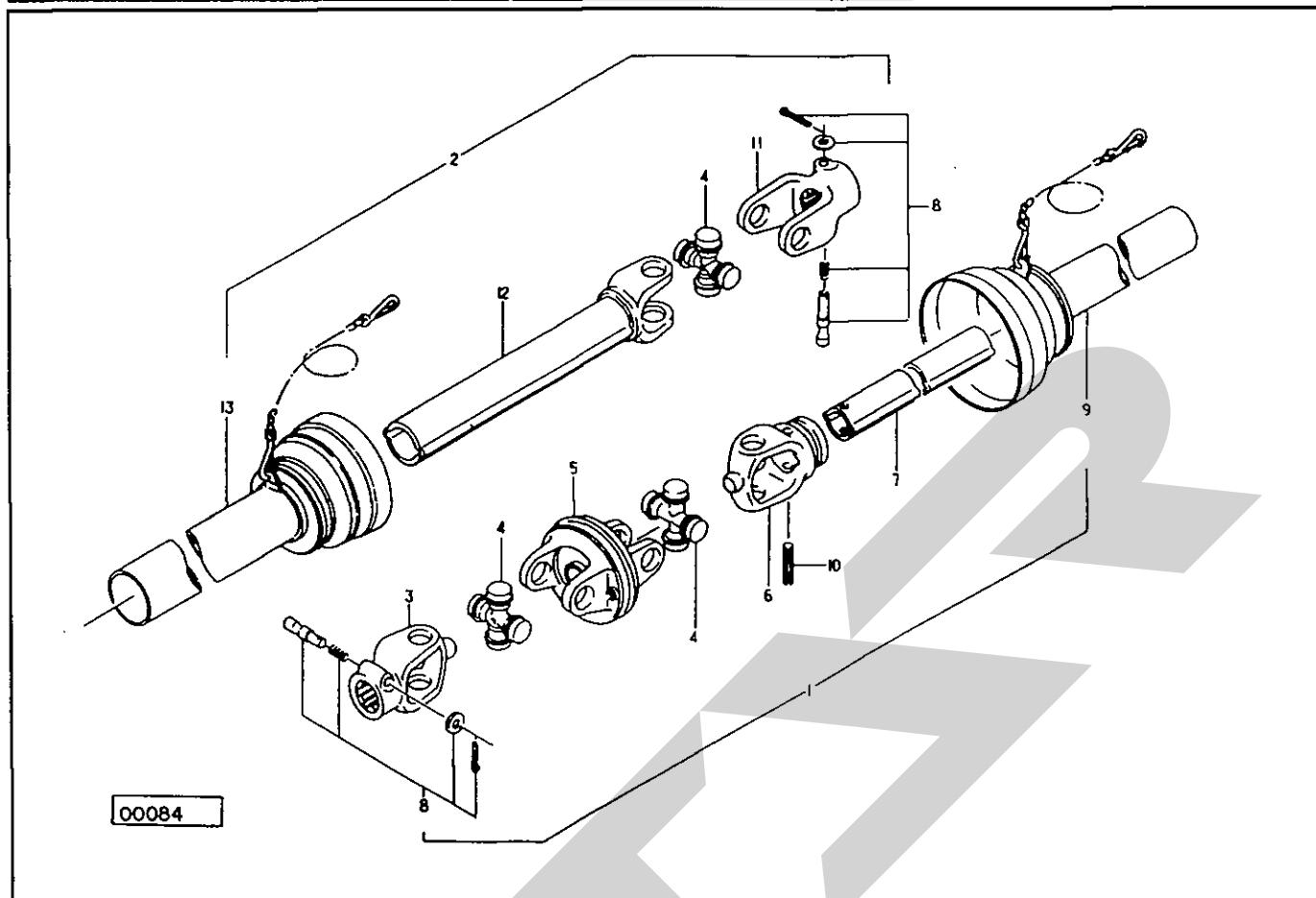
12651

AYM8500ユーザーマンホールアタッチメント (TVC8530オプション)



13117

WM-75 パワージョイント





本 社 066-8555 千歳市上長都1061番地2
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都1061番地2
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

旭川営業所 070-8004 旭川市神楽4条9丁目3番35号
TEL 0166-61-6131
FAX 0166-62-8985

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 帯広市西22条北1丁目12番地
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

北見営業所 090-0001 北見市小泉302
TEL 0157-24-3880
FAX 0157-61-1344

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町2丁目16番2
TEL 01537-2-2624
FAX 01537-3-2540

花巻営業所 025-0312 岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1
TEL 0198-26-5741
FAX 0198-26-5746

仙台営業所 985-0845 宮城県多賀城市町前2丁目4番27号
TEL 022-367-4573
FAX 022-367-4846

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁2512-1
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

名古屋営業所 480-0102 愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191
TEL 0587-93-6888
FAX 0587-93-5416

松本出張所 399-0033 長野県松本市大字笹賀5824-5
TEL 0263-26-5731
FAX 0263-26-5761

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市下中野704-103
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊本営業所 862-0939 熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号
TEL 096-381-7222
FAX 096-384-3525

都城営業所 885-0004 宮崎県都城市都北町3537-1
TEL 0986-38-1045
FAX 0986-38-4644